

# Significance of aldosterone gradient within left adrenal vein in diagnosing unilateral subtype of primary aldosteronism

緒方, 大聖

<https://hdl.handle.net/2324/4474976>

---

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士  
バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)



KYUSHU UNIVERSITY

氏名：緒方 大聖

論文名：Significance of aldosterone gradient within left adrenal vein in diagnosing unilateral subtype of primary aldosteronism

(原発性アルドステロン症の片側性サブタイプ診断における左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配の有用性)

区分：甲

### 論文内容の要旨

背景：右副腎静脈へのカテーテル挿入成功率は限られている。同側副腎静脈分枝間のアルドステロン濃度勾配はアルドステロン産生腺腫に特異的な所見である。

目的：本研究は左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配が片側性のアルドステロン過剰を示唆するか検討するために行った。

研究デザイン：単一施設における横断研究。

対象と方法：成功した副腎静脈サンプリングのデータを有する原発性アルドステロン症症例、計 123 例を調査した。左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配は共通幹と副腎中心静脈におけるアルドステロン/コルチゾール比が  $> 4 : 1$  の時に有意と判定した。

主要評価項目：有意な左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配を有する症例における左片側性サブタイプの頻度。

結果：有意な左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配を有する症例における左片側性サブタイプの頻度は、有さない症例と比較して有意に高かった(88.2% [15/17] vs. 21.7% [23/106],  $P < 0.001$ )。低 K 血症と左副腎腫瘍の少なくとも一方を有する 60 例においては、有意な左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配は左片側性サブタイプ症例にしか認めず(42.9% [15/35])、両側性サブタイプ症例には認めなかった(0.0% [0/25])。これらの結果は外部コホートでも立証された。

結論：低 K 血症と左副腎腫瘍の少なくとも一方を有する症例において、有意な左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配の存在は左片側性サブタイプの診断に用いることができる。